

学校教育自己診断の結果と分析〔令和5年12月実施分〕

問内容		肯定率〔%〕		
		生徒	保護者	教職員
(1)	学校の満足度。(保護者:生徒が生き生きしている。)	94.3	98.9	－
	暇高は楽しい。	96.3	88.3	－
(2)	教え方にさまざまな工夫をしている先生は多い。	91.9	－	－
	興味を感じる授業が多い。	83.9	－	－
	ペアワークやグループワークなどを授業に取り入れている。	－	－	88.0
	授業におけるICT機器の活用。	－	－	98.0
	授業アンケートの結果を教科指導に反映。	－	－	92.0
(3)	担任以外にも悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる。	84.4	－	94.0
	学校生活についての先生の指導は納得できる。(教員:理解を得ている)	88.2	95.5	90.0
	将来の進路や生き方について考える機会がある。	97.0	95.1	92.0
	生命の大切さや社会のルールについて考える機会がある。	91.3	92.7	－
	いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。(教員:体制が整っている)	95.8	93.2	92.0
(4)	暇高祭は、楽しく行えるように工夫されている。	97.3	93.9	98.0
	部活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い。	97.3	95.9	90.0
(5)	本校の探究活動の取組みに満足。	76.5	93.7	96.0
	本校の国際交流(台湾修学旅行・オーストラリア研修等)の取組みに満足。	94.3	91.0	98.0
(6)	成績などの内容についてプライバシーが守られている。	95.9	95.8	84.0
	人権を尊重した指導への取組み。(教員:十分に話し合われている)	－	93.3	84.0

- (1) 生徒の学校生活の満足度、保護者の評価は非常に高く、生徒・保護者ともに肯定率に大きな増減はない。これは、「勉強だけでなく、行事も部活動も全力で楽しむ」という本校の教育方針が評価されていることの表れである。
- (2) 教え方の工夫は微減し、興味を感じる授業は微増した。教員のペアワークやグループワーク、ICTを活用した授業実施率は微減したが、全般的に授業に関する項目の肯定率は非常に高い。また、授業アンケートの全校平均値は3.48から3.53へ大幅に上昇した。これは、授業力向上委員会が中心となって、教員の授業相互見学や授業公開などを積極的に進めてきた成果である。今後も、生徒の学力や興味関心を高め、希望する進路の実現につながるよう、教員の授業力向上に取り組んでいく必要がある。
- (3) 一部の項目の肯定率は微減したが、生徒指導や進路指導に関するすべての項目の肯定率は非常に高くなっている。カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や3年間の進路指導計画『なわて』に基づく進路指導、丁寧な教育相談などを行っている成果が指標にも出ており、今後も進路指導や教育相談体制の充実に努めていく必要がある。
- (4) 今年度は新型コロナウイルスが5類感染症に引き下げられ、コロナ禍以前のルールで学校行事を実施することができた1年であった。暇高祭や部活動に関する肯定率はやや微減しているが、部活動加入率は大きく上昇した。今後も部活動や学校行事を通じて、生徒の自主・自律・自由の精神を育んでいきたい。
- (5) 今年度よりSSH第Ⅲ期が始まったが、探究活動の取組みに関する肯定率はやや微減した。しかし、取組内容は、インプット、アウトプット活動ともに、第Ⅱ期までの実績を引き継ぎ地域に発信するなど、さらに進化している。国際交流への取組みは、肯定率が生徒、保護者、教職員ともに大幅に上昇した。これは、国際交流行事がコロナ禍から本格的に復活したことによるところが大きい。6月に姉妹校である台湾の松山高級中学校、11月にオーストラリアのパンダバーク校が修学旅行で来校し、本校生と交流した。また、12月にはベトナム医療ボランティアツアーを4年ぶりに実施し、3月にはオーストラリア研修を実施する予定である。来年度は、探究活動の成果を他教科での授業づくりに活かすとともに、国際交流においては台湾修学旅行を実施する予定である。
- (6) プライバシー保護や人権尊重への取組みについては、保護者や教職員でやや肯定率が下がったが、大きな変化はない。人権教育に関する教職員の肯定率は大幅に上昇したが、今後も人権教育を充実していく必要がある。